Vol.10 映画で学ぶ環境問題

『マイケル・ジャクソン THIS IS IT』

公開：2009年
制作：ソニー・ピクチャーズ
監督：ケニー・オルテガ
出演：マイケル・ジャクソン

　この映画はご存じの通り、2009年6月25日に急逝した大スター、マイケル・ジャクソンの、ロンドンで予定されていたコンサートの「リハーサル映像」を集大成した作品です。

　ご覧になっていない方の中には、なぜこの作品を「環境問題」のシリーズに加えるのか不思議に思われるかもしれませんが、実は、マイケル自身がこの作品の中で語っているように、彼は、自身の最後になるであろうコンサート『THIS IS IT』を、環境問題をテーマにした公演にする予定でした。

　ファンではない一般人には死後に理解されるようになったのですが、マイケルは実は大変純粋な心の持ち主で、環境問題や地球の汚染について、心底から心配をし、何とか自分たちの力でこの美しい地球を再生したいと考えていたのです。自分の影響力というものを良く知っていた彼は、このコンサートを通して、多くの人々に地球の問題について真剣に考えてほしいという「提案」をおこなったのです。そして現実に、全世界で50万人以上の人がこの映画を観て、マイケルの「提案」に触れることになりました。

　ただ残念ながら、彼の死があまりにも急で衝撃的だったため、マイケルが望んだ「テーマ」である環境問題への「提案」は、まるで影が薄くなってしまいました。

　実際、どの映画評論や感想を読んでも、ほとんどといってよいほど、「この作品には、マイケルの地球環境への想いがこめられている」ことが書かれていません。

　ただ、この作品を見た誰もがみんな、マイケルが本当に極めて鋭い完璧主義者だったことを知るのみです。

　このコンサートの中のマイケルは、没した時と同じ満50歳。普通の人間であれば、どんなにトレーニングを積んでいても、息を切らしながら、ちょっと手を抜く姿を見せることでしょう。マイケル以外の50歳の人間は、あれだけ見事に踊りながら歌うことなど、できないのです。いくら1曲ずつのリハーサルとはいえ、どこまでも完璧を求めながら、美しく、そして周囲をいたわりながら踊り・歌う彼の姿は、観る物の心を大きく揺さぶることでしょう。

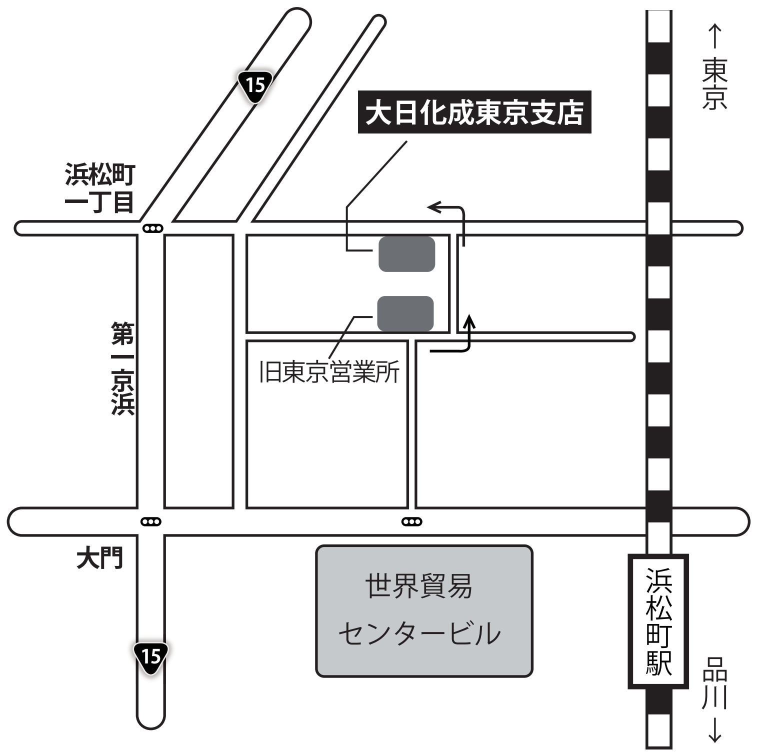
　死後に明らかになったこと。それは、2度にわたる「児童性虐待疑惑」が、単なる金目当てのゆすりたかりであったこと。しかも、そのゆすりの主は、一方は、大スター・マイケルに親切にしてもらった一介の少年の父親、一方は、末期ガンを救ってもらった少年の母親。この事実を見れば、「世の中には、お金や利己心のために、自分に親切にしてくれた優しい恩人（命の恩人）に対して、とめどなく悪意に満ちたねつ造をおこない、平然と食い物にしようとする人間が、何人もいること」を思い知らされます。しかも、世の中の大半の人間は、一時的に、マイケルが有罪であるのではないかと疑っていたのです。本当は彼がどういう人物なのか、事実を知ろうともせず「単なる噂」を通じて彼を忌み嫌っていたのです。

　貧しい人々に命を捧げたマザーテレサも、マイケルと同じように純粋であったがゆえに、若い頃はまともな評価を得られず非難の的になっていたといいますが、私たちは、時には大きな過ちの評価を行っているのかもしれません。

　そのように考えれば、今、私たちがおこなっている「環境対策」も、実際のところは単なる利権屋に踊らされているだけで、本当に地球のためになっていないのかもしれない・・・

　この映画はそんなことを考えさせられる、非常に奥の深い作品です。音楽が苦手な方にも、ぜひご覧頂きたく思います。

東京営業所移転のご案内



1984年東京営業所を出店以来、数々のご愛顧を賜り誠にありがとうございます。

このたび、業務多忙につき手狭となったことから2010年9月1日をもち、左記に移転する運びとなりました。

またこの機をもちまして、益々のお客様満足度の向上をはかるため、東京営業所を東京支店へ昇格させることとなりましたので、謹んでご報告させていただきます。

新住所
〒105-0013
東京都港区浜松町1－2－5
電話番号・ファックス番号は変更はございません。

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。

スタッフ紹介

日頃は営業活動やお電話で応対させていただいておりますスタッフの日常をお伝えいたします。

ワールドカップにみる組織のパワーについて

　今回の優勝国は過去から現在に至るまで、無敵艦隊と揶揄され、過去に一度も優勝経験のないスペインになったことは記憶に新しいかと思います。

　ワールドカップの楽しみ方については、人により大きく異なることでしょう。単にスポーツとしての観戦。勝利予想する楽しみ。有名選手の華麗なテクニックを目の当たりにすること等。

　さて、話をかえて、戦前の日本代表の勝敗予想は個人的には2敗1分け、もしくは全敗というものでした。しかし結果は2勝1敗。驚愕の結果となりました。

　初戦のカメルーン戦を勝利で終えた日本ではありますが、戦前の予想は、世界中のメディアも90%程度カメルーン勝利を予想。しかし、個人的に、もし日本が勝利するなら。の展開に非常に近いイメージで90分を終えた。

　本田選手を前線に置き、センターラインより、深くひき、自陣のゾーンに深く敵を押し込めて、まさにハエが集るようなサッカー。ゴール前のスペースを完全に封殺する戦法であった。完全勝利。

　しかし、現実は【生ぬるい試合】※英BBC等・・・と酷評されていたが、あのスタイルは立派であると考えている。個対個で実力対抗できない側が組織的に対応することでの勝利。と日本のメディアが報じていたが、個人的考え方では、個対個の勝負に勝てなければ、組織としての勝利はない。

　強い個、特徴のある個がなければ組織としても勝てないと考える。あのカメルーン戦での各選手の活躍を見る限り、身体能力で上回るといわれるカメルーンの選手が劣勢であったことは確実だ。

　ボールを支配していても、シュートさせてもらえない。焦りが生じる。完全な日本のペースだ。

　オランダ戦もよく戦った、あの強豪オランダに負けはしたものの、0対1の結果。日本のサッカーも世界で通用することが、証明された。次のデンマーク戦、この戦を勝利できれば、予選トーナメント突破が確定するだけに、みなさんも遅くまで起き続け、眠たい目を擦りながら、夜遅くまで観戦されたことではないでしょうか？

　結果。3対1で日本の完全勝利。ここで海外のメディアが一気に日本の実力を報じはじめた。

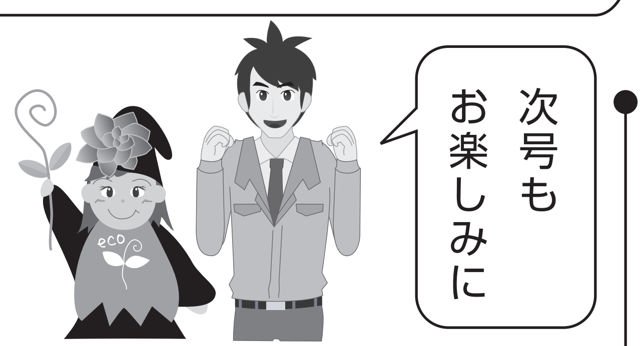
　これまでの2試合の報じかたとは全く正反対の論調が主。【日本は華やかで、大胆。日本は強い】※ル・モンド紙【岡田監督はプレーで適切な韻を踏む、詩人】※ガゼッタ・デロ・スポルト紙。等。

　優勝国スペインも華やかなパスサッカーをスタイルとしているが、あくまでも【組織力】で勝ちあがってきた国とされる。しかし、ここには当然、才能あふれる個が満ち溢れている。

　やはり組織力と個の力が正比例しなければ、上に這い上がれないことを漠然と感じた。

営業部 浦壁 勝

DAINICHI CHEMICAL CO.,LTD.
●本社
〒571-0030　大阪府門真市末広町 8-13
TEL：06-6909-6755(代)　/　FAX：06-6909-6702
●東京支店
〒105-0013　東京都港区浜松町1-2-5
TEL：03-3436-3801(代)　/　FAX：03-3436-3803



URL：http://www.dainichikasei.co.jp